

抄 録

結核専門雑誌

Beiträge zur Klinik der Tuberculose 87. Band. 5. Heft. 1936.

日光(熱及ビ光線)ノ影響ニヨル喀痰中結核菌ノ生存日數ニ就テ

A. Zink: Über die Lebensdauer des Tuberkelbacillus in tuberculösem Sputum unter Einwirkung von Sonnenwärme und Sonnenstrahlung.

結核菌ノ乳劑又ハ結核菌ヲ含有セル喀痰ヲ砂上ニ於テ日光ニ作用セシムレバ 2 時間乃至 5 時間後ニハ結核菌ノ繁殖不能トナル。日光ノ殺菌作用ハ紫外線ノ外熱ノ作用モ重大デアアル。コノ事ハ喀痰ヲ容器中ノ砂上ニオキ、同一條件テ熱ノミ、紫外線ノミ、或ハ兩者共遮斷シタ實驗テ確カメタ。紫外線ノ作用ハ 2440 米ノ高所ニ於ケル實驗及 Hanau 氏水銀石英燈ヲ低温ニ於テ作用セシメテ知ツタ。波長ノ短カイ程殺菌力大デアアル。又風ノ有無(温度ノ影響)季節等モ殺菌力ニ關係アリ。

(東京市療 馬場抄)

肺結核症ノ Solganal-Bismosalvan 療法ニ關スル最近ノ觀察及知見

Ladislav Mandel: Neuere Beobachtungen und Gesichtspunkte bei der kombinierten Solganal-Bismosalvan-Behandlung der Lungentuberculose.

重症肺結核症ヲ有スル微毒患者ノ治療ニ當リ Neosalvasan, Bismut ノ代リニ金製劑ト蒼鉛製劑ヲ同時ニ用ヒ良結果ヲ得タノテ微毒ヲ有セザル肺結核症ニモ用ヒタ。適應症ハ主ニ輕症又ハ重症ノ片側性病變テ外科的療法ヲ同時ニ行ツタモノ及ビソノ必要ナキモノ、兩側性廣汎ナ病變ガ輕度テ外科的療法ノ必要ナキ場合等テ其他微毒ヲ合併セルモノ、喉頭結核症、副睪丸結核症等ニモ良結果ヲ見タ。禁忌トシテハ廣汎ノ腎臟結核症及急性腎炎、腸結核症、惡液質、「アミロイドーシス」、肝臟病變、特異體質等デアアル。

使用法、金製劑トシテ Solganal 又ハソノ種ノモノヲ皮下又ハ靜脈内ニ用ヒ、蒼鉛劑トシテハ Bismosalvan ヲ用ヒタ。Solganal 0.002—0.005 gr ヨリ 0.1 迄次第

ニ増量シ全量 1 gr ニ至ル。0.1 ヲ 3、4 回行ツタ頃ヨリ Bismosalvan ノ注射ヲ初メル。0.5 cc ヨリ初メ 2 cc 宛ヲ注射シ Solganal が全量ニ達スル迄ニ Bismosalvan 2 cc 宛ヲ 10 回注射ス。全経過 3—4 ヲ月デアアル。

效果、體重増加、喀痰及ビ其ノ中ノ結核菌減少又ハ消失、其他體温、赤沈、理學の所見、「レ」線像等著明ニ良好トナツタ。殊ニ空洞性肺結核症 184 例中 38 例ニ空洞消失シ 60 例ニ空洞萎縮シタ。全體 200 例中 80% ニ治療效果得ラレタ。病型トノ關係ハ混合性ノモノ最モ治療シ易ク次ニ増殖性、浸出性ノ順デアアル。文獻ヲ參照シ金製劑ノミノ場合ト比較スルニ蒼鉛劑ヲ共ニ用ヒタ場合ハ副作用モ少ナク效果モ大デアツタ。金療法ハ一種ノ刺戟療法テ用量ノ標準ハ決マツテキナイガ、著者ハ血液像ヨリ解決サレルデアアラウト云ツテキル。

(東京市療 馬場抄)

統計上ヨリ見タル癆腫及結核症ノ合併例

L. Findeisen: Das gemeinsame Vorkommen von Carcinom und Tuberculose in statistischer Beleuchtung. 25 年間ニ解剖シタ 8296 例中癆腫ハ 1363 例ニ見ラレタ。癆腫ト結核症ト同時ニ來ル事ハサシテ稀テナイガ同一臟器ニ來ル事ハ稀デアアル。ソノ中最モイノハ肺テ次ハ腸デアアル。他臟器ハ極メテ稀デアアル。同時ニ來ル場合男女ノ別ヲ見ルニ男ガ斷然多イ。又年齡ハ 60 歳代デアアル。結核症ハ古イ癆痕性又ハ纖維性ノモノテ、急性浸出性ノモノハ極メテ少ナク、結核症ト癆腫ノ同時ニ來ル場合ノ總數ノ 0.5—1.0% 位デアツタ。

(東京市療 馬場抄)

金療法ヲ施行サレタ結核患者體內ニ於ケル金ノ分布

Werner Gerlach: Über die Goldverteilung im Körper goldbehandelter menschlicher Tuberculöser.

金療法ヲ施行セラレタ 2 名ノ結核患者ノ體組織ニ於

ケル金ノ分布状態ヲ検査シタ。検出法ハ約 1 厘平方、 $\frac{1}{2}$ gr 位ノ組織片ヲ作り之ヲ高周波ノ火花ヲ焼灼シツノ紫外線分光像ヲ見ルノテアル。

之ニヨルト肝臓ニ最モ多ク次テ脾、腎等デアツタ。結核肺ニハ極少量デアツタ。而シテ結核性病變部ト健康部トノ差異ハナカツタ。又攝取サレタ全量ノ $\frac{1}{14}$ 又ハ $\frac{1}{16}$ ハ長期間體內ニ蓄積サレタ。(東京市療 馬場抄)

人工氣胸腔内ノ遊離「フィブリン」體ニ就テ

L. Funstein: Über freie Fibrinkörper in der Pneumothoraxhöhle.

人工氣胸ノ經過中ニ起ツタ移動可能ナ「フィブリン」體ヲ 2 例ノ患者ニ就テ示ス。大サハ李大及ビ鷄卵大テ各々袋フーツ宛持ツテキル。「レ」線上體位ヲ變ヘテ見ルトヨク分ル。共ニ少量ノ浸出液ノ後ニ起ツテキルガ一例デハ氣胸施行時ノ出血ト關係ヅケントシテキル。

(東京市療 馬場抄)

打診ニヨル肺疾患ノ診斷法

Alfons Winkler: Was vermag die Percussion in der Erkennung entzündlicher und destruktiver Erkrankungen der Lungen zu leisten?

打診法ハ今日餘リ重要視サレテキナイガ軽度ノ浸潤、空洞ノ診斷等ニ於テ「レ」線診斷法ニ劣ラナイ。

健康者ニ於テ片側ノ肩胛骨ヲ上ゲ他側ノソレヲ下ゲテ兩肺尖部ヲ打診スレバ、下ゲタ方ノ側ハ肺ガ全體トシテ萎縮シ短音トナル。軽度ノ浸潤ガアレバ肩ヲ上ゲテモ短音ノ儘デアル。片側ニ空洞ガアレバ空洞側ノ肺尖部及前胸部(第三肋骨以上、胸骨線、及ビ乳線又ハ前腋窩線ニ取圍マレタ部分)ハ輕打診テ低調、健側ハ高調デアルガ、強打診テハ逆デアル。又前述ノ前胸部ト胸骨部トノ比較テハ健康テハ輕打診、強打診共ニ胸骨部ガ高調デアルガ、片側ニ空洞ガアレバ輕打診テハ空洞側ノ前胸部ハ高調、強打診テハ低調デアル。又兩側性空洞ノ場合ハ打診音ノ Seitenwechsel ガ起ル。即極輕打診テ一方ガ他側ニ比シ低調ノ場合ヤ、強イ打診テハ高調トナリ、更ニ強イ打診テハ又低調、最モ強イ打診テハ高調トナル。胸骨部トノ比較テハ前胸部ハ輕打診テハ左右共低調、強打診テハ左右共高調デアル。上述ノ方法ニヨリ軽度ノ浸潤ノミナラズ空洞ノ存在モ非常ニヨク診斷スル事ガ出來ル。但シ打診ノ強弱ノ程度ハ各人ノ練習ヲ要ス。(東京市療 馬場抄)

人工氣胸中ノ「フィブリン」體及ビ其ノ試験管内製法

Ludwig Vajda: Blutfrinkugel bei Pneumothorax und der Versuch ihrer in vitro Erzeugung.

人工氣胸ノ經過中ニ起ツタ濕性肋膜炎ノ穿刺後ニ見ラレタ「フィブリン」體ノ 1 例ニ就テ述ベテキル。次テ其ノ發生論ニ言及シ、今日迄纖維素ノミヨリ生ズルト云フ説ト、豫メ肋膜腔内出血ガ必要デアルト云フ説ト相對立シテキルガ、著者ノ考ヘハ後者ニ屬シテキル。其ノ證明トシテ 2 名ノ特發生氣胸患者ヨリ浸出液ヲ各々試験管ニ取り當該患者ノ靜脈血ヲ之ニ混和シタルニ、直チニ「フィブリン」體様ノモノガ生ヅタ。コノモノハ鹽酸「ペプシン」テ溶解サレタガ振盪ニヨツテハ容易ニ破壊サレナカツタ。

又「フィブリン」體ハ一般ニ無害ト考ヘラレテキルガ、コノモノガ基トナツテ癒著ヲ起ス事ガアルカラ、注意ヲ要スト云ツテキル。(東京市療 馬場抄)

體質研究、第一報、結核兒童ニ於ケル胸圍、身長等ノ發育速度ノ差異

Walter Brandt: Konstitutionsstudien. I. Mitteilung. Unterschiedliche Entwicklungsgeschwindigkeiten mehrerer anthropologischer Merkmale beim tuberculösen Kind.

結核症ト體型トノ關係ニ就テ諸家ノ意見ヲ綜合スルニ大體 3 種ニ分タレル。即(1)細身型ナキモノニ結核症ガ多イ(大人ニ就テ)。(2)體型ト結核症ハ無關係デアアル。(3)寧口筋肉型、肥滿型ノモノニ結核症ガ多イ(小兒ニ就テ)デアルガカ。ル體型ハ(1)形態形成(Anlage)、(2)成長(Wachstum)、(3)分化(Differenzierung)ノ 3 ツカ種々組合サレテ生ヅタモノデアアル時間的ニハ胎生期ノ最モ初メニ Anlage ガ出來次テ成長、分化ノ順デアアル。成長ハ大サ並ビニ形ノ變化デアリ分化ハ臟器内部構造ノ分化デアアル。小兒テハ其ノ年齡相當ノ成長、分化ガアルデアルガ、之ガ必ズシモ平行スルモノテナク、速度如何ニヨリ早熟、發育不全、其他種々ノ體型ガ生ズルデアアル。著者ハ 305 例ノ結核兒童ニ就キ肩幅、身長、體重、胸圍ヲ男子別、年齡別(3 歳ヨリ 15 歳迄)ニ測定シ之ヲ健康兒童ト比較シタ。判定ニ當ツテ身長、體重ガ正常カ否カハ Adam ノ示シタ次ノ 4 項ヲ基礎トシタ。即正常トシテ(1)身長ガ同年齢者ノ平均以下ノ場合、體重ハ少クトモ其ノ小兒ノ實際ノ身長ニ相當ス。(2)身長ガ平均ヨリ大ナル場合ハ體重ハソノ身長ニ相當スル體重トソノ年齡ニ相當スル體重ノ中間値デアアル。(3)體重ガ平

均以下又ハ以上テ、身長ガ年齢ニ相當シテキレバ、ソノ年齢ニ相當スル體重ガ正常デアル。(4)體重モ身長モソノ年齢ニ相當スルヨリ大ナル場合ソノ身長ニ相當スル體重ガ正常デアル。コノ法則ヲ基トシテ見テ行クニ健康者テハ年齢ノ増加ト共ニ發育モ順次ニ増加シテキルガ結核兒童テハコノ調和ガ破壊サレテキル。即男兒ニ就テ見ルニ、6歳ノ結核兒童ハ體重ノ増加ガオクレテキルガ、9歳ノモノハ早スギル、10歳ノモノハ體重身長共ニ遅レ、13歳ノモノハ體重ハ遅レテキルガ身長ハ早過ギル等デアツタ。結核症ト胸圍ノ狭イ事トハ Kleinschmidt, Dudden 等ノ意見ト同様關係が見ラレナイ。(東京市療 馬場抄)

初期或ハ治癒期ノ極メテ 輕症肺結核症ニ於ケル 結核菌ノ排出ニ就テ

Karl Menzel: Die Ausscheidung von Tnberkelbacillen bei beginnenden, wenig aus gebreiteten und heilenden Lungentuberculosen.

文獻ニハ肺ニ 理學的竝ビニ「レ」線上全ク 變化ノナイ場合ニモ喀痰中ニ結核菌ノ 見出サレタ場合ガ報告サレテキルガ之ハ多クノ場合心臟ノ 後ロ又ハ横隔膜竇中ニ隠サレタ病竈が見落サレタ事ニヨル。著者ハ肺ノ 變化ガ全ク 無イ場合ニハ1例モ 結核菌ヲ見出サナカ ツタガ非常ニ輕度ナ初期又ハ治癒期ノ 陰影ノアツタ 3例テ結核菌ヲ見出シ、其ノ病歴及「レ」線寫眞ヲ示シテキル。喀痰検査方法ハ喉頭粘膜附著物(Kehlkopfabstrich)ヲ培養スル場合ト、胃又ハ十二指腸内容物ノ培養デアル。

此ノ方法ヲ用フル時ハ今迄閉鎖性ト 思ハレタモノモ

開放性ノ場合ガ屢ク見ラレ、殊ニ初期結核症テハ極メテ早期ニ菌陽性ノ場合アル事ガ知ラレタ。コノ事ハ診斷、類症鑑別、治療方針、豫後判定ヲナス上ニ重大デアル。Kehlkopfabstrich ハ操作簡單テ外來テモ行ハレ得。方法ハ厚サ1mm、長サ20cmノ眞鍮針ノ尖ニ濕シタ綿ヲ卷キツケ喉頭ノ粘膜ヲ輕ク擦過シ、10%ノ硫酸ヲ5分間作用セシメ次テ N/10 苛性曹達テ之ヲ中和シ培養スルノデアル。(東京市療 馬場抄)

片側氣胸時ノ胸廓ノ運動ニ就テ

Anita Bock: Die Thoraxbewegungen bei einseitigem Pneumothorax.

人工氣胸ニ際シ肺ノ安靜ト虚脱ハ 屢ク混同サレテキルガ之ハ自ラ異ナツテキル。氣胸肺ガ安靜シテキルカドウカラ見ルニハ 胸廓ノ運動及縦隔竇ノ移動ヲ検査スレバヨイ。著者ハ20名ノ片側氣胸患者ニ就テ、氣胸前後ノ胸廓ノ運動ノ變化ヲ Anthony-Hansen 氏ノ Thorakograph ヲ用ヒ左右同時ニ描寫セシメタ。氣胸後ノ變化ハ 氣胸施行後少クトモ 3週間シテカラ見テキル。肺活量モ同時ニ測定シ兩者ノ値ヨリ 次ノ結果ヲ得タ。8名ニ於テハ呼吸量ノ變化ナク、9名ニ於テハ極僅カノ増減アリ。唯僅カニ3例ニ於テハ稍々著明ナ呼吸量ノ減少が見ラレタ。Reserveluft, Komplementärluft モ同時ニ減少シタ。

即胸廓ノ運動ハ氣胸前後ニ於テ殆ンド變化ナク、從ツテ虚脱肺全體トシテハ靜止シテキナイ。然シ一部分ノミガ靜止シテキル事ハ可能デアリ之ハ Thorakograph テハ分ラナイ。(東京市療 馬場抄)

Zeitschrift für Tuberkulose Bd. 76. H. 4, 1936.

結核病經過ニ於ケル圓形病竈ノ態度

O. Koch: Über die Stellung der „Rundherde“ im Krankheitsverlauf der Tuberkulose.

所謂圓形病竈ハ「レントゲン」技術ノ 進歩ニヨリ注目セラル、所トナリシガ或ヒハ 早期浸潤ト關係アリトシソノ晩期ノモノナリトスルモノアリ、或ハ前期ナル事アリトスル學者アリ。其發生經路ニ關シテモ血行性ナリトスルモノアリ、氣管性ナリトスル學者アリ、亦特殊ノ「アレルギー」位ノ上ニ 發生スト稱スルモノアリ。著者ハ該病竈ヲ有スル9例ノ剖檢例ヲ得タルヲ以テ圓形竈外ノ 結核蔓延狀態ヲ 精査シテ圓形竈ナル特

異型ノ條件ヲ説明セントス。

圓形竈ノ組織學的所見ヲ觀察スルニ、何レモ廣大ナ乾酪化ト結締織ヨリナル境界ノ判然タル被膜ヲ有シ、コノ部ヨリ内部ニ向テ組織化ガ行ハレツ、アリ。如斯基組織ノ 破壊トソノ境界發生トハ 強烈ナル反應ニ基因スルモノナル印象ヲ與フ。斯ノ如キハ血行性結核ノ反應性ノ表現ナリ。

次ニ考慮スベキハ例ノ 大部分ハ 大循環系ニ結核ヲ併發セル事ナリ、腎臟、副腎、副睪丸、脊椎、關節、腦等ニ之ヲ見ル、即チ圓形竈ハ血行性蔓延ノ傾向ヲ有スルヲ示ス。換言スレバ慢性汎發性結核ヲ有ス。慢性汎

發性結核ニ於テハ 病原因ハ 體液ト持續的ニ接觸スルト考ヘラル。ソノ結果ハ高度ノ Tuberkulinisierung 發生ス。個體ハコレニヨリ特殊ノ反應位ヲ呈ス。即肺組織ノ抵抗力増強ス。然ルニ他方過敏狀態モ亢進シアルヲ以テ何等カノ原因アラバ 抵抗ハ 急墜シテ急性ノ増悪ヲ惹起シ得、「アレルギー」狀態ノ如斯變化ハ實ニ慢性汎發性結核ニ特有ナリ。即チ不安定狀態ニ存ス。圓形竈ノ發生機轉ハ多クハ 血行性ナルモ勿論氣管枝性ニモ發生シ得ルハ否定シ能ハズ。唯個體ノ免疫生物學的總體ノ如何ニ依リテ發生スルハ確實ナリ。

(刀根山 松村抄)

血出後肺虚脱ヲ起セル一患者ノ肋骨畸形

Harald Harpth: Rippenanomalie bei einem Patienten mit Lungenkollaps nach Blutung.

大咯血後左肺ノ完全虚脱ヲ來シ縦隔竇器管ハ 著明ニ左側ニ牽引サレタルヲメ 8、9 肋骨間ニ脊椎ノ右側 2 cm ノ部ニ於テ骨性ノ留狀橋形成ヲ見出セリ、10 日後再ビ肺ノ膨脹スルニ從ヒ 該陰翳ハ 非特異性肺門陰翳ノ形トナリ、認め得ザルニ至レリ。如斯畸形ハ稀有ノ例ナリ。

(刀根山 松村抄)

Meinicke 結核反應(Kuppenreaktion)、血液像及赤沈速度ノ比較研究

L. Hardt: Vergleichende Untersuchungen über die Tuberkulosereaktion(Kuppenreaktion)nach Meinicke, Blutbild und Blutkörperchengeschwindigkeit.

結核患者 87 ニ就キ Meinicke 結核反應、血液像、赤沈反應ヲ測定比較セリ。Meinicke 反應陽性者ハ 87 中 84 ニシテ陰性 3 ハ(1)非活動性結核、(2)疑似結核、(3)中毒症狀甚ダシキ肺結核ニシテ、(3)ハ抗體ノ不足ニヨルト解スベシ。血液像竝ニ赤沈反應ハ毎 3 週測定セルニ血液像ト M.R トノ間ニハ一定ノ平行關係アリ。赤沈速度ハ前者共ニ平行ナラズ。

上記三反應ハ活動性結核ノ豫後判定ニ役立つモ、ソノ中赤沈速度ハ動搖甚ダシク、ソノ意義ハ餘リニ期待シ過グベカラズ。M.R ノ強陽性竝ニ淋巴球高度増加ハ豫後良好ノ徴ナリ。

(刀根山 嶺尾抄)

人工氣胸術ニヨル出血性肋膜浸出液

B. Papanikolan: Die hämorrhagischen Pleuraergüsse des künstlichen Pneumothorax.

人工氣胸ニ最モ屢々見ル合併症ハ 肋膜浸出液ノ出現ナルモ出血性浸出液ノ例ハ僅少ニシテ 10 例ノ記載ヲ

見ルノミナリ。著者ハ 12 年間ノ臨牀觀察ニヨリ得タル該例 3 ヲ報告シ、又他ノ報告ト比較セルニ次ノ如キ興味アル結論ヲ得タリ。浸出液ノ出血性ナル事實ハ試験穿刺ニヨリテ始メテ確定シ得ルモ 臨牀症狀トシテハ呼吸困難及罹患側ノ疼痛ニシテ時ニ發作狀ナル事アリ。是等症狀ハ機械的ニ惹起サル、モノニシテ穿刺ニヨリ緩解ス。人工氣胸ニヨル出血性浸出液ノ病因ハ尙不明ナルモ多クハ普通ノ肋膜浸出液ノ先行スルヲ以テ見レバ肋膜ノ結核性障礙ニ依ルト考ヘザルベカラズ。該病變ハ轉歸良好ナルヲ以テ解剖例ナシ。病因ヲ明カニスル唯一ノ方法ハ Thorakoskopie ナルモ從來ノ報告ニ施行セラレタルモノナシ。著者モ目的ヲ達セザリキ。

發生原因トシテ結核性出血性肋膜炎、或ハ肋膜腔内血管破裂ヲ考ヘ得。著者ノ例ノ示ス如ク兩説共ニ可能ナリ。轉歸ハ大多數ハ良好ナルモ浸出ノ持續傾向アルモノニアリテハ 二次的感染ニヨリ 生命ニ危険ヲ來ス場合アリ。

治療ハ絶對安靜ヲ命ジ呼吸困難及疼痛甚ダシキ際ハ穿刺スベシ。浸出液發生持續スルモノニアリテハ肋膜外胸廓成形術ヲ施行スベシ。(刀根山 嶺尾抄)

Jena 醫科大學外來ノ結核相談所年報

J. E. Kayser-Petersen: Jahresbericht der Tuberkulose-Fürsorgestelle an der Medizinischen Univ.-Poliklinik Jena.

Jena 市部及郡部ノ結核相談狀況ヲ比較シ夫婦結核、女性性的成熟ノ開始及閉止ノ結核病變ニ及ボス影響、Jena ニ於ケル 1930—1934 ノ肺結核ノ動勢等ニ注目シ統計的觀察ヲ述ベ結核豫防將來ノ問題トシテ療養所ヘノ隔離ト結核環境ニアル國民ノ監視ニ就テ説述シテオロ。個人ノ犧牲ヲ最モ輕減シテ而モ出來ル最大ナル效果ヲ舉ゲルニハ Tönshe ノ Nachfürsorgeheim ノ如キモノヲ増設スル事以外ニハナイト確信シテオロ。亦環境監視ハ結核ヲ早期ニ發見スル最モ重要ナ方法デアツテ「X」寫眞ヲ含メテサヘモ極メテ儉約的デアルトシテ、其費用ヲ擧ゲテオロ。例ヘバ要監視 1 人ニ付キ都會ニテハ 1 年 6 RM、地方ニテハ 6 RM テアツテ療養所治療 1 人 4 ヶ月ノ費用ヲ都會地ノ監視 200 人分地方 100 人分ニ相當スル。而カモ Lin ノ述ベルガ如ク適當ノ時期ニ 検査スレバ 時ヲ失ツテ検査シタ場合ニ比シ傳染可能ノ結核ノ發見率ハ 18.68% (0.72—19.4%)、僅少ナリトスレバ 100 人ノ環境觀察ヲナス

トシテ療養所治療費約 8000 RM ノ儉約トナルト稱ス。

Fürsorge 及 Vorsorge (Kötschau) ノ問題 - 就テハ醫師ノ第一義の問題 ハ社會醫學的豫防的ニ全國民ニ働

キカケル所ノ Vorsorge (著者ハ之ヲ社會醫學的結核相談ト稱スル)デアラネバナラヌト信ズルト述ベテオ
ル。
(刀根山 嶺尾抄)

Zeitschrift für Tuberkulose Bd. 76. H. 6, 1936.

夫婦結核問題補遺

J. W. Sopp: Ein Beitrag zur Frage der Ehegatten-tuberkulose.

結核ノ種々ナル傳染方法及ビ傳染源ノ危險性ヲ認識スルコトハスベテノ結核対策中ニテ最モ重大ナル意義ガアル。飛沫傳染カ感染ノ主要ナル根源デアルコトガ知ラレテ以來實驗的ニ、或ハ自然關係ノ調査ニヨツテソノ危險ノ程度及ビソノ感染豫防ノ可能性カ知ラレテキル。

遺傳的因子ヲ除外シ得ル爲ニ多クノ人ニヨツテ開放性夫婦結核ノ感染ニツイテ研究サレテキル。Kayser-Petersen ハ 1935 年ノ Kreuznach ノ結核集談會ニ於テ此ノ方面ノ仕事ニツイテ立派ナ概要ヲ述ベテキル。ソレニモ拘ラズ著者ガ Bonn ノ療養所カラノ少數ノ材料ニツイテ本問題ニ關シ發表シヨウトスル所以ハ夫婦ノ結核感染及ビ發病ノ頻度並ビニ重サニツイテハ未ダ一貫シタ意見ガナク、又結核ニ於ケルスベテノ環境的要素ノ意義ヲ批判シ得ル爲ニハ他方又地方的差異ヲモ知ラナケレバナラナイカラデアル。ソノ上尙今日迄發表サレタ仕事ハ開放性結核患者ノ數値以外ニハ何ラ感染及ビ發病ノ徵候ニ關シ確實ナ敘述ガナク、從ツテ何ラ比較スベキ材料ガ存在シナイ。結核感染ハ毎日行ハレテキルガ幸ニモ發病ハソレ程度々デアナイカラ此ノ場合結核ニ於ケルスベテノ感染結果ノ精確ナ記述ハ非常ニ大切デアル。著者ハ Kayser-Petersen ノ業績ニ追加スルモノテ、140 例ノ夫婦結核患者ノ結婚ニヨル結核感染ノ問題ヲ追究シタ。即チ家族及ビ個人ノ精確ナル豫診ヲトリ、臨牀検査ト共ニ赤血球沈降速度ヲ調べ、感染及ビ發病ノ徵候ニツイテハ X 線像ノ見地ニ從ツテ次ノ如ク

第一群、何等病的變化ナキモノ

第二群、肺門ニ於ケル石灰化病竈

第三群、肺野ニ於ケル獨立石灰化病竈

第四群、肺野ニ於ケル播種性撒布病竈

第五群、肋膜炎性病變

第六群、非活動性第三期肺結核

第七群、活動性閉鎖性肺結核

第八群、活動性開放性肺結核

ニ分類シ、殊ニ次ノ事柄、即チ遺傳的關係、性別ニヨル感染結果ノ分類、病氣ノ發現シ始メタ年齡、危險ニ曝サレタ期間及ビソノ強度、環境的要素(收入、住居關係)等ニ就テ注意シタ。ソノ結果女性ニ於テ、又若年ナル程、危險ニ曝サレル期間ガ長ク續キ、ソノ強度ノ大ナル程、更ニ非衛生的ナルモノ程危險性ハ大デアツタ。著者ノ調査ニヨルト遺傳關係、收入及ビ住居關係ハ比較的重要デアナイ。此ノ事實ハ Thüringen ニ於ケル如キ結核豫防ノ新法律ヲ制定スル場合ニハ特別ノ重要サヲ有スルモノト考ヘル。

(刀根山 青野義圓抄)

療養所醫ノ立場カラ見タ胸廓成形術問題

H. Gödde: Fragen zur Thorakoplastik von Standpunkt des Heilstättenarztes.

適應症ノ撰ビ方、手術ノ方法及ビ後處置ヲ詳シク説明シ最後ニ本手術ハ療養所ノ醫者ガ自ラ行ハナケレバナラナイ譯ノモノデアナイ、何トナレバ適應症ハ澤山アルモノデアナイカラ、外科醫ガ嚴密ニ適應症ヲ定メルヤウニモナレナイシ、又内科醫ハ自ラ手術ガ出來ルヤウニ常ニ訓練ガテキナイ、故ニ内科醫ト外科醫ガ連絡シテ問題ニ當ルノガ理想デアルト云フ。

(刀根山 農野抄)

學齡兒童ノ結核性浸潤ハ感染ノ危險アリヤ

Franz Klein: Sind die tuberkulösen Infiltrierungen im Schulalter ansteckungsfähig?

Tuberkulin 反應陽性ノ學齡兒童ニシテ、臨牀上並ニ「レ」線像上ニ何等所見ナキモノ、又今日マテ非感染性ト考ヘラレテキル prä-tuberkulöse Erkrankung ヤ結核性浸潤ヲ有スルモノ、胃洗滌液中ニ屢々(18—56%)結核菌ヲ發見スルコトハ Poulsen 及ビ Opitz 以來多數學者ノ證明セル所デアルガ、之ノ疫學的意義ニ就テハ未ダ決定シテキナイ。

著者ハ體格検査ノ際、偶々發見セル上記肺浸潤ヲ有スル學童 24 名ニ就テ、5 年間ニ互リソノ學級及ビ家庭ヲ觀察シ感染ノ有無ヲ系統的ニ調査シタ。ソノ結果ソノ學友及ビ同胞ノ Tuberkulin 反應陽性率ハ一般同年齡ノモノニ比較シテ何等高率ヲ示サズ、又活動性結核ノ發生モ認メナカツタ。

幼兒期ノ Primäre Infiltrierung テアツテ胃洗滌液中ニ結核菌ヲ證明シタ場合ニハ、有菌性喀痰ヲ嚥下シタモノトシテ意義ガアルガ、學齡期ニハ Primäre Infiltrierung ハ極メテ尠ク、多クハ淋巴腺結核デアアル、稀ニ肺ノ Sekundäre Infiltrierung ガアツテ偶々血行性若クハ淋巴道性ニ胃中ニ排泄サレタ少數ノ菌ヲ證明シタカラト云ツテ何等感染源トシテ懼ルハ、ニ足ラナイ。又胃洗滌術ハソノ肺浸潤ガ特殊性デアアルカ非特殊性ノ例ヘバ Atelektase ナドデアアルカラ區別スル時以外ニハ學齡兒童ニ就テ施行スルコトハ無意義ナトデアアル。

(刀根山 河端抄)

皮膚ノ外傷性結核初感染ノ一例

Arvid Eriksson: Über einen Fall von traumatischer tuberkulöser Primärinfektion der Haut.

人結核ノ感染ハ通常氣道ヲ介シテ行ハレルモノデアツテ、皮膚ハ結核菌ノ侵入門戸トシテハ極メテ價値ノ尠イモノトセラレテキル。然シ皮膚ノ外傷ニ續發シテ外因性ノ結核感染ノ起ツタ例ハ決シテ稀有デハナク多數ノ報告ガアル。結核個體ノ皮膚ニ外因性ノ再感染ガ起ツタ場合ハソノ變化ハ限局性デアツテ屢々皮膚疣狀結核ノ如キモノトシテ何等所屬淋巴腺ノ關與ヲ伴ハナイガ、未感染個體ノ場合テハ、肺臟ニ於ケルト同様皮膚ノ變化ト共ニ所屬部位ノ乾酪性淋巴腺炎ヨリ成ル初感染原發群ヲ發生スル。後者ノ例ハ Lehmann 其他ガ「ユダヤ」人ノ割禮(包皮切斷)ニ續發シタモノ、又 Wahlgrenn ノ 3 例ノ報告ガアルノミテ一般ニ多イモノデハナイ。著者ハ 12 歳ノ男子ガ左眉部ヲ馬蹄ニ蹴ラレ約 3 cm ノ裂傷ヲ受ケ、ソノ縫合治癒後、再發性ノ肉芽組織ヲ發生シ、同側下顎骨角ニ硬キ淋巴腺塊ヲ認メタ定型的一例ヲ記載シテキル。最モ肺臟其他ニ結核性變化ヲ認メズ、再發性肉芽組織及ビ淋巴腺ガ組織學的竝ニ動物實驗的ニ結核性ナルコトヲ證明シテキル。

(刀根山 河端抄)

移動的結核相談

W. Ekhardt: Motorisierte Tuberkulosenfürsorge.

地方ノ結核療養所ヲ中央都市ノソレノ如ク活動的ナラシムルハ時代ノ要求スル所デアリ、之ガ實現ニヨリテ益々廣範圍ニ於ケル結核豫防及ビ治療ノ完成ヲ期シ得ルノデアアル。

此ノ目的ノ爲ニハ地方ニ散在セル各個人ヲ一定場所ニ集メテ集團的ニ觀察スルヲ要ス。即チ特殊ノ設備ヲナセル自動車ノ應用ニヨリ、其レガ輸送能力ヲ高ムル事ハ必要デアアルガ、更ニ著者ノ使用セル、オーストリアニテ完成セラレタ新手提型 X 線装置ニ依リ、簡單ニ而モ自在ニ多人數ヲ透視、撮影スル事ヲ得、之ニ依リテ結核患者ノ早期診斷ヲ爲ス事ハ肝要デアルト述ベテキル。

(刀根山 大門抄)

結核患者ノ人工的感作及ビ特異免疫反應元ノ他動的賦與ニ關スル實驗的研究

J. Alföldy und Z. v. Bernáth: Experimentelle Untersuchungen über die künstliche Sensibilisierung und die passive Übertragung der spezifischen Reagine bei der Tuberkulose.

「コンゴ」法ニ依リ網狀内被組織ガ良好ナル機能状態ニ在ル時ハ、Bessau ノ反復反應ヲ行フコトニ依リテ「ツベルクリン」ニ對スル皮膚感作ヲ期待スル事ガ出來ル。又コノ際脾臟ノ深部照射ニ依リ更ニ之ヲ強メルコトガ可能デアアル。而シテ之ノ兩現象ノ存在セル場合ニハ、比較的豫後ガ良好デアアル。

著者等ハ實驗ニ依リ以上ノ事實ヲ知り、其ノ機轉ニ就キ次ノ如ク説明シテキル。

先ヅ皮膚ニテ屢々繰リ返ヘサレタル感作ノ爲ニ皮膚組織細胞中ニ在ル、「アレルギー」抗原ノ作用ニ依リ或ル物質即チ免疫反應元ガ生成サレ、ソレガ血行ニヨリ遠隔ノ場所ニ持チ來サレ全皮膚ヲ感作スルノデアアル。次ニ脾臟深部照射ニ依ル作用ハ恐ラク Weichardt ノ云フ如ク非特異性刺激ニ依ツテ、感作セラレタル細胞ハ特異性反應ヲ爲ス事ニヨルノテ即チ特殊ノ状態ニ置カレテアル個體ハ、非特異性影響ヲ受ケルモ特異性抗体生成ニ向ツテ刺激セラレタノデアアル。

(刀根山 大門抄)

Revue de la tuberculose 5^e Série-Tome 2 N^o 5, 1936.

人工氣胸有効期間ニツイテ、收縮ノ惡イ癒著病巢ノ意義

G. Maurer, E. Hantefenille: Les variations de la durée utile des pneumothorax thérapeutique le rôle de foyer adhérentiels mal éteints.

人工氣胸ヲ何時中止スベキカハ六ケシイ問題デアアル、統計ニヨレバ長期間繼續シタモノ程成績が良イ。併シ6年ニ及ブ長期ノ人工氣胸が無効デアツタリ、癒著ヤ患者ノ都合テ8ヶ月カラ1年シカ行ハナカツタ場合有効デアツタ例モアル。故ニ人工氣胸ノ有効期間ヲ決定スル事が重要ナ問題デアアル。之ヲ決定スル因子ハ病型氣胸開始時、病變ノ新舊、治療經過ノ如何治療中ノ事故、他肺ノ状態最後ニ患者ノ社會的状态ガアル。即チ一般の規則ニ依ツテ考ヘルヨリモ個々ノ場合ニハ氣胸ヲ續ケル事ノ便、不便ニヨリ決定スル様ニナツテ來ル。一般ニ長期繼續ハ種々ノ惡作用ガアリ又ウマク消エナイ癒著セル病巢ノ有害ナル作用ヲ考ヘネバナラス。

長期氣胸ニヨリ病巢部ハ硬化シ健康部ハ無氣肺狀ニナル。之ヨリ完全ニ擴張シ得ナイ塊ニ肺ガナル事ハナイトシテモ柔軟性ヲ減少シ肋膜ノ肥厚柔軟性ノ減少ガ起ル。又20—80%ノ浸出液ヲ見ル又肋膜腔ヲ充ス可キ肺ガ擴張シ得ナイ爲ニ縱隔膜ノ彎曲ガ起リ、肺穿孔ヤ、他ノ感染時即チ丹毒、咽頭炎ノ時肋膜感染ヲ起ス場合ガアル。癒著モ障碍トナルモノテVéranノ報告ニヨルト氣胸ヲ中止シテ後再發スル例ノ95%ハ癒著ノアツタ不完全氣胸デアアルト云フ、治療ト云フ標準ハ人ニヨリ意見ガ異ルガ余ノ經驗ニヨルナレバ繼續シテ2ヶ年間ノ臨牀的治癒ガアル場合テナケレバ完全ナ治癒ト考ヘナイ、ソシテ其ノ間人工氣胸ヲ保持スベキデアアル。但シ之ハ個々ノ場合ニ變動ノアル事ハ止ムヲ得ナイ。又不完全氣胸ノ場合ハヨリ以上長クスルヨリ現在ノ所致シ方ガナイ。長期ノ氣胸ノ後肺ガ以前ノ如ク擴張スルカ否カ検査セネバナラス。其ノ爲治療ノ仕上トシテ療養所ニ收容スル事が望マシイ。

(今村内科 梅谷抄)

安息香酸曹達ノ靜脈内注射ニヨル肺結核治療

L. Goldkorm, A. Bielenki: Traitement de la tuberculose pulmonaire par les injections intraveineuses de Benzoate de Soude.

安息香酸曹達ハ昔カラ結核治療劑ト云ハレ、又喀痰劑デアリ制腐劑デアアル所カラ又經口のニ用ヒルト肝臟ヲ變化ヲ受ケル所カラ靜脈注射トシテ肺結核ニ試ミタ。患者ハヨク此ノ注射ニ耐ヘ中止セネバナラナカツタ者ハ1人モ無ク注射後口中ヤ鼻ニ特有ノ臭氣ガアルガ不快デハナク氣道ヨリ排泄サレル爲 Corysaノ輕快セルモノガ2例アツタ。時ニハ注射後 Euphorieヲ起スモノモアル。量ハ20%5ccヲ用ヒ翌日ニハ8cc3日後ニハ10cc時ニハ15ccニマテ至ル。藥液ガ不純デアレバ發熱ガ起ル Heyden製ガ良イ、開放性空洞性ニハ2ヶ月纖維性ニハ1ヶ月用ヒル。我々ハ60人ニ約2000回注射シタ。氣管枝肺炎型ヤ喉頭結核ヲ伴ヘルモノ末期ノモノニハ無効デアアル。アマリ大ナラザル空洞型ヤ新イ型ノモノハ喀痰中結核菌ノ消失、「レントゲン」像ノ減少等ヲ望ミ得ル、病變ノ大ナル者テハ症候的ニ良イ即チ食欲ノ増加、體重ノ増加特ニ喀痰ノ減少ガアル。兎ニ角喀痰ノ多イモノニハ他ノ萎縮療法ト併用シテ用フル價值ガアル。

(今村内科 梅谷抄)

肺尖剝離、「パラフィン」充塞ノ38例ノ結果

A. Courconx, Sonpault, Biderman, Alibert, Méry: Resultats de 38 apicolyses avec plombage paraffiné. 術式ハ局所麻酔、或ハ「エビパン」ヲ用ヒ、皮膚切開ハ6—8cmテ肋骨切除ハ一般ニ6cm位デアアル。癒著ハ指テ取ルガ仲々取りニクイ事ガアル暴力的ニヤツテハナラス、此ノ際指ノ先ノミ入レテ手全部ヲ入レテハナラス、「パラフィン」ハ200gr位入レル。時ニハ300grモ入レタ事ガアル。「ドレン」ハ入レナイ。

術後直ニ死亡シタ例ハナイ。發熱ハ2—3日續ク8日間ノ安靜後拔絲スル。化膿ハ早期ニ5例起リ4例ハソノ爲「パラフィン」ヲ除カネバナラナカツタ。又術後13ヶ月目ニ化膿シタ例ガアツタ。直ニ「パラフィン」ヲ除イテ治癒シタ。「パラフィン」ガ他ノ部分ニ移行シタノガ2例アル。適應ハ肺尖部ノ空洞デアアルガ餘リ大イノハ效果ガナイ。我々ノ行ツタ例テハ4cm直径ガ最大テ數ハ1個乃至數個デアアル。空洞ノ位置ハ前方ニ於テ5番目ノ肋骨ノ下端マテ夫以下ニアルモノニハ行ハナイ、病變ガ兩側ニアツテモ邪癍ニハナラス、大部分ノ者ハ人工氣胸ヲ先ヅ行ツタガ癒著ノ爲入ラズ。又21人ハ横隔膜神經ヲ捻除シタガ空洞ガナクナラナカ

ツタ者テアル。

結果ハ38人中30人ハ術後1年以上経過、8人ハ6ヶ月以上経過テアルガ30人中、15人ハ有効デアツタ。15人中ノ11人ハ臨牀の治癒即チ菌消失、執務可能デアアル。1人ハ可成り後ニ臨牀の治癒ヲ來シタ。3人ハ殆ド輕快トモ云フ可キデアアル、病變ガ兩側化シタノガ

2人テ是等ハ術後最初ハ菌陰性テ執務可能デアツタガ後ニ他側ニモ病變ガ及シタ。11例ハ無效デアツタ。他ノ2例ハ1ハ心臟病テ死ニ1例ハ術後間モナク消息ヲ失ツタ。6ヶ月以上経過ノ8人中5人ハ外見上治癒テ3人ハ無效デアアル。(今村内科 梅谷抄)

Revue de la tuberculose 5° Série Tome 2 N° 6

「Thoracectomie élastique de détente et d'attente」ナル語

A. Maurer et R. Ranturean: La thoracectomie élective de détente et d'attente évolution de la méthode La thoracectomie élective de détente.

我等ノ1人 Maurer ガ Tobé 及び Davy ト共ニ言ヒ出シタノテ術式ハ Monaldi 法ヲ借りテ居ル。即チ横隔膜神經捻除ニ加フルニ肋骨ヲ前側方ニ於テ切除シ肺ノ弛緩ガ容易ニ行ハレル様ニ肋骨ノ化骨ヲ妨ル爲「ホルマリ」ヲ作用サセル、我々ハ肋骨ノ前方切除ヲ4例ニ行ツタガ結果ハ良クナカツタ故ニ Thoracectomie élective de détente ナルモノヲ考ヘタ。之ハ一定ノ術式ヲ有スルノデアアルガ個々ノ場合多少ノ變化ガアル。即チ肺病變部ヲ骨ヨリ自由ニスルト云フノガ主眼テ鎖骨、肩胛骨テ圍ル部分ノ肋骨ヲ後部ニ於テ骨膜外切除ヲナス、又ハ骨膜ヲ付ケ肋骨筋ヲ付ケタマ、切除スル。結果ハ術後短期デアアルガ良好デアアル。

(今村内科 梅谷抄)

「ツベルクリン」反應強陽性ノ B. C. G 接種兒童ノ胃内容ノ検査價値ニツイテ

L. Sagé, Rita, Scheton: Sur la valeur de l'examen du contenu gastrique chez l'enfant vacciné an B. C. G. ayant une réaction allergique intense à la tuberculine.

B. C. G. 接種兒童ニ「ツ」反應ハ出現スルガ弱程度デアアル。B. C. G. 接種兒ニ強程度ノ「ツ」反應ガ表レタ時 B. C. G. 接種ニヨルカ他ノ強力ナ自然感染ニヨルカ區別ハ困難デアアル。「ツ」反應強陽性兒テ外見上健康ナモノ、胃内容カラステニ可成リノ%テ結核菌ガ見出サレテ居ル。夫テ B. C. G. 接種兒テ「ツ」反應強陽性者ノ胃内容ヲ検査シタ、方法ハ胃内容ヲ海狸ニ注射スルノデアアル。著者ニヨルト B. C. G. 接種者テ自然感染ヲ受ケタモノハ「ビルケー」反應テ強ク判然ト出テ丁度 B. C. G. ノミニヨル皮内反應ノ強サト同程度テ

アルト云ツテ居ル。46人ノ「ツ」反應強陽者カラ21人結核菌ヲ胃内容ヨリ證明シタ。「ツ」反應弱陽者11人カラハ全部陰性デアアル。46人中胸部=X像ノ所見アルノハ34人アル。菌陽性者ハ殆ドX像ニ於テ所見ガアツタ。所見ハ主トシテ肺炎型ノ初感染像デアツタ。0—1歳ノ11人ノ菌陽性ノ内8人ハ治癒、1人ハ結核性腦膜炎テ死亡、1人ハ不明、1人ハ治療中デアアル。是等ノ兒童ハ殆ド家族感染デアアル。菌ハ皆人型デアアル。(今村内科 梅谷抄)

虛弱者ニ於ケル結核ノ意義

R. Burnand: Le rôle de la tuberculose chez les "Patraques"

慢性ノ虛弱ナル状態アタカモ體質のト考ヘラレ、人々ヲ對照トスル、之ハ漠然トシテ居ルガ、醫者ニ來テ漠然トシタ訴ヘヲナス人々テ永ク續ク疲勞、怠惰、顔色ガ惡イ等云フ人テ過去ヲ聞クト幼時育チニクカツタ。風邪ヲ引キ易イ腸ヲヨクコハス、常ニ健康感ガナイト云フ類デアアル。是等ハ寒ガリテ憂鬱テ消化器ハスベテ不調テ女ニ多イカ月經ハ不順デアアルガ診察スルニ之ト云ツテ惡イ所ガナイ。然ルニ是等ヲ調べルトX像テハ殆ド全部胸部ニ淋巴腺、肺肋膜ニ何等カノ結核性ノ陰影ヲ見出ス、主トシテ肋膜癒著、淋巴腺ノ腫大、肺野或ハ淋巴腺ニアル石灰化等デアアル。ソシテ「ツ」反應ハ陽性デアアル。此處ニ結核ガ虛弱ノ原因デアアルカ、虛弱ナル爲ニ結核ヲ招來スルカト云フ問題ガ起ル。著者ハ前者ノ方ヲ考ヘル、即チ病變ガ殆ド潜伏或ハ最少限度ニナツテ居ルノニ Toxikaemie ノ状態ガ恢復セヌモノト考ヘテ居ル。是等ハ結核性疾患ニ一定ノ免疫ヲ有スル如クニ見エル。生命ニモ大シタ影響ガナイ、治療トシテ休養、轉地ハ一時的ノ效果ヨリ望メヌ。然シ憂鬱ヲ無クスル爲ニ一時的ノ休息、轉地ハ必要デアアルガ長イ間ハ不可デアアル。特殊治療法トシテ「ツベルクリン」、「アンチヂェーヌ、メチリク」等ハ使用法ガ良クレバ有效デアアル。(今村内科 梅谷抄)

結核外専門雑誌

B. C. G. 接種後ニ於ケル補體結合反應

G. B. Reed and B. G. Gardiner: Complement Fixation Following B. C. G. Vaccination. (The Journal of Immunology Vol. 31, No. 6.)

カルメット氏 B. C. G. 「ワクチン」0.3 疋ヲ皮内ニ接種セル 9 歳ヨリ 16 歳迄ノ 11 人ノ小兒ニ於テ、接種 13 ヶ月後ニ「ツベルクリン」皮内反應ヲ檢シタルニ其ノ内 9 人カ 0.1 疋ノ「ツベルクリン」ニ陽性トナリ、1 人ハ 0.1 疋ニテハ陰性ナリシモ、1.0 疋ニテハ陽性トナリ、1 人ハ 1.0 疋 3 回連續接種ニテモ陰性ナリ、接種 16 ヶ月後ニ於ケル Wadsworth 氏法(1927)ニ依ル補體結合試験ハ 11 人全部陽性ナリ、而シテ S 及ビ R 兩「アンチゲン」ノ存在ニテ殆ド同量ノ補體ガ結合サレ、著者等ノ所謂 S/R 指數ハ 1ニ接近セリ、Rice 氏(1931)及ビ Rice 氏、Reed 氏(1932)ニ依レバ、加熱殺菌セル S 型菌ニテ長期間免疫サレシ、家兎血清ニ於テ、S「アンチゲン」ハ R「アンチゲン」ヨリモ約 2 倍量ノ補體ヲ結合セリ、然ルニ R 型菌ノ免疫動物ハ S「アンチゲン」及ビ R「アンチゲン」何レモ同量ニ補體ヲ結合セリ、即チ S 免疫動物ハ S/R 指數ガ 2ニ近ク、R 免疫動物ハ S/R 指數ガ 1ニ接近セリ、又 Reed 氏、Orr 氏及ビ Rice 氏(1934)ニ依レバ加熱殺菌セル B. C. G. 菌ニテ免疫セル家兎血清ハ補體結合反應ニ於テ、R 型菌免疫動物ノ血清ノ如クニ作用セリ、前記 11 人ノ人體實驗例ニ於テ、其成績ハ或ハ B. C. G. 接種前ノ感染カ、或ハ重感染ニヨリ影響サレシヤモ測ラザレドモ、少クトモ S, R 兩「アンチゲン」ガ各々同量ノ補體ヲ結合セル事實ハ、他ノ實驗動物ノ成績ニ於ケルガ如ク、B. C. G. 菌ガ特異 S「アンチゲン」性ヲ缺クカ、或ハ其レ有リトスルモ、接種 16 ヶ月後ニ於テハ補體結合試験ニテ測リ得ル程度ノ S 特異免疫性が消失セリトイフ説ヲ支持スルモノナリ。

(北研 植村抄)

結核ニ於ケル「ビタミン」C 過剰症(豫報)

F. H. Heise and G. J. Martin: Supervitaminosis C in Tuberculosis (Proceedings of the Society for Experimental Biology and Medicine Vol. 35, No. 2.)

猿 15 匹ノ中、5 匹ヲ對照トシ、残りノ 10 匹ニ、毎

日結晶ノ cevitamic acid(Cebione)ノ 20 疋ヲ、腹腔ニ注射シ、7 日ノ後 300,000 個ノ人型結核菌ヲ鼠蹊部皮下ニ接種セリ、接種後モ引續キ毎日注射シ、5 ヶ月ノ後、各試獸ニ、30 瓦注射シ終リシ時ニ屠殺シテ解剖セリ、肺、脾、肝、淋巴腺ノ病變ヲ檢シテ、其病變度ヲ平均セシニ、對照動物群ハ 3ニシテ、「ビタミン」C 過剰症群ハ 2.2 トナリ、兩群ノ間ニ病變ノ差異ヲ認メズ。

(北研 植村抄)

人癩ニ於ケル S 型及ビ R 型色素產生抗酸性菌ノ家兎ニ及ボス影響(豫報)

J. R. Kriz: Effect of "R" and "S" Forms of Chromogenic Acid-Fast Bacillus from Humann Leprous Lesion on Rabbits. (Proceedings of the Society for Experimental Biology and Medicine Volume 35. Number 4.)

著者ハ人癩ノ病竈ヨリ、色素ヲ產生セル S 型及ビ R 型ノ抗酸性菌ヲ分離シ、兩型菌ヲ各々 3 頭宛ノ家兎ノ皮下、腹腔内及ビ鼻腔内ニ接種セリ、S 型菌接種家兎ハ約 7 ヶ月ノ後、著明ニ羸瘦シ、皮下接種局所ニハ數個ノ結節ヲ生ズ、該結節ニハ鏡見上多數ノ抗酸性菌ヲ認ム、又肝、脾、腎ニハ抗酸性菌ヲ喰菌セル細胞多數アリ、而シテ、血管ノ肥厚モ著明ニシテ、2 頭ノ家兎ハ増殖性、纖維性神經炎ノ爲、四肢ノ麻痺ヲ來セリ、之ニ反シ R 型菌接種家兎ハ羸瘦スルモ著明ナラズ、結節ヲ生ズルモ、潰瘍ニ至ラズシテ消失シ、臟器ニハ癩性變化ヲ見ズ、又抗酸性菌ヲ證明セズ、此ノ實驗ノ目的ノ一ツハ人癩病竈ヨリ分離セル、色素產生抗酸性菌ガ、家兎ニ於テ人癩ニ比スベキ病變ヲ起シ得ルヤ否ヤヲ驗スルニアリテ、他ノ一ツハ R 型及ビ S 型ナル變異菌ノ病源性ノ差違ヲ決定スルニアリ、而シテ實驗ノ結果ハ家兎ニ對シテ S 型菌ハ R 型菌ヨリ強キ病源性ヲ證明セリ。

(北研 植村抄)

實驗結核ニ於ケル溫熱療法

E. Bogen: Thermotherapy im Experimental Tuberculosis (Proceedings of the Society for Experimental Biology and Medicine Vol. 36, No. 1.)

225 匹ノ海猿ニ、0.1—0.0001 疋ノ人型結核菌ヲ接種シ、3 ヶ月間、華氏 85—90 度ニテ飼養シ、良好ナル成績ヲ得タリ、結核ノ進展ヲ阻害スル溫熱ノ影響ノ本

態ハ不明ナルモ、次ノ様ニ説明スルヲ得、即チ海猿ハ、此ノ如キ高温度ニテハ、若シ活動セバ不愉快ニナルヲ以テ、止ムヲ得ズ靜肅ナリ、換言スレバ強制的ナ安靜療法ヲ施行セシ事ニナリ、其結果結核ニ良影響ヲ與ヘシナラン、此ノ説明ニ依レバ、安靜ヲ守リ得レバ、特ニ温熱ヲ必要トセザル事ニナルモ、結核症ノ回復ニ、安靜が重要ナリトノ概念ニ對シテ、追加的證明ヲ與ヘシモノナリ。

(北研 植村抄)

牛型結核菌ヲ注入スル家兎坐骨神經ノ變化ニ就テ

Kon, M: Intraneurale Injektionen boviner Tuberkelbacillen beim Kaninchen. (Zeitschrift für Hygiene u. Infektionskrankheiten, 118 Band. 3 Heft. 1936.)
 著者ハ種々ナル細菌ヲ以テ施行セラレタル坐骨神經内注入法ノ文献ヲ紹介シタル後、牛型結核菌ヲ用ヒテ本法ヲ行ヘリ。供試菌トシテ弱毒、中等毒、強毒ノ三種ヲ選ビ、夫々、兎大腿上3分ノ2ノ部ニテ、坐骨神經分岐ノ直上部ニ注射シ、1, 2, 3, 4, 5, 6及ビ1撒布モ3週後ニ既ニ注射部ヨリ脊髄ニ至ル、間隔5乃至6.5種ノ過半部ニ擴ガリ、4週後ニハソノ3分2ニ及ベリ。強毒菌株ヲ用ヒタル9頭ニ於テハ、ソノ中2頭ハ速カニ脊髄迄モ冒サレ、ソノ他ハ生存期間ノ延長スルニ應ジテ、病變部位モ擴大セラレ、10乃至12週ノ如キ長期生存家兎3頭ハ脾、肺、腎ニモ結節ヲ生ジ、淋巴管性、血行性全身撒布ヲ示セリ。
 坐骨神經ヨリ脊髄ニ迄モ病變進行シタル2頭ノ家兎ハ臨牀的ニ後肢麻痺ヲ示セリ。而シテ1頭ハ剖檢上、病變ハ神經根ヲ經テ薦髓神經節ニ及ベルヲ觀、2週ヲ經テ屠殺シテ肉眼的、病理組織的ニ、兩側坐骨神經、脊髄、脊髄膜、更ニ必要ニ應ジテハ腦髓腦膜ヲモ檢索セリ。ソノ結果(一)本法ニ依リテ局所性竝ビニ求心性結核病變惹起セラレ、且其ノ病變ノ強弱、經過ノ遲速ハ、用ヒタル菌株ノ毒力、菌量、竝ビニ供試家兎ノ生存期間ニ關係スル處大ナリ。即チ弱毒菌1萬分1珽ヲ注射セル5頭中、僅カニ1頭ノミ局所變化ヲ示シ、且結核菌ハ注射部ヨリ求心側ニ8耗侵入セルノミナルニ反シテ、中等毒菌株ヲ用ヒタル6頭ニ於テハ、總テ多數ノ結核結節形成セラレ坐骨神經内菌他ノ1頭ハ上部頭髓ニ迄達セル瀰蔓性脊髄膜炎ヲ示セリ。尙此ノ兩者ハ、定型の結核結節及ビ巨大細胞ノ存在ハ證サザリシモ、細菌學的ニ、多數ノ結核菌ヲ發見サレタルモノナリ。(二)上述ノ上行性脊髄膜炎ヲ併發セル家兎ニ

於テハ薦、腰、頸各髓ノ白質部ニ血管周圍性浸潤強ク、而シテソノ程度ハ、就中薦髓ニ最モ著シク、漸次頸髓ニ向ヒテ低下ス。(三)病變進行過程ハ接種部ヨリ求心性ニ坐骨神經ヲ冒シテ、脊髄神經根部就中背側神經根部ニ至リ、次テソノ脊髄ヘノ移行部ニ於ケル軟膜中ヲ環狀ニ蔓延シテ全周ヲ侵シ、更ニ軟膜ヨリ、放線狀ニ脊髄實質、就中先ヅ白質部次テ灰白質部ニ至ルモノ、如クニシテ、是ニ關シテハ、Hömen et Laitine, Orr u. Rows, Walthard. 等カ夫々、化膿菌、菌體毒素「ヘルベス」病原體ヲ以テセル實驗ト一致セル成績ヲ示セリ。

(九大細菌 森良雄抄)

尋常性狼瘡ニ於ケル結核菌ノ菌型檢索

Bruno Lange: Untersuchungen über den Typus der Tuberkelbacillen bei Lupus vulgaris. (Zeitschrift für Hygiene und Infektionskrankheiten, Bd. 119, Heft 2, 1937.)

著者カ結核菌ヲ培養シ得タ尋常性狼瘡45例中23例ハ人型結核菌ニ因リ、20例(44.4%)ハ牛型結核菌ニ基因シ殘餘ノ2例ヨリハ人型牛型兩結核菌ヲ證明シ得タ。而シテ其等ノ毒力ニ就テ見ルニ——人型菌ハ之ヲ措キ——斯カル培養牛型結核菌株中正常毒力ノモノハ漸ク6株ニ過ギズシテ、他ハ凡テ多少ニ不拘毒力カ減弱シテ居タ。

次ニ著者ハ斯カル結核菌菌型決定ヲ目的トスル細菌學的檢索ニ際シテハ初代培養ヲ「グリセリン」缺如卵培地(Dorset)上ニ試ミルコトカ甚ダ重要テ勿論此ノ際「グリセリン」加卵培地ヲモ併用ス可キ事ハ論ヲ俟タナイトコロテアルカ一部ノ學者ノ提唱スルカ如ク徹頭徹尾「グリセリン」加卵培地ノミヲ使用スルト云フ事ハ菌型決定ヲ簡易化スル所以テハナイト述ベテ居ル。

尙獨逸ニ於ケル他ノ尋常性狼瘡報告例ニ比シテ今次ノ著者ノ檢査例ニ於テ、牛型結核菌感染ノモノカ非常ニ多クツタノハ被檢患者ガ主トシテ Kiel 及其ノ近郊ノモノデアツテ其ノ地ニハ結核罹患牛ガ多ク、而モ其ノ土地ノ人々ハ屢々牛乳ヲ生ノ儘テ飲用スルト云フ習慣カアル爲デアルト見テ居ル。

併シテラ、一般ニ尋常性狼瘡ニ於テハ他ノ結核性諸疾患ニ比シテ何故ニ牛型結核菌ガ遙々屢々證明サレルノデアアルカト云フ、問題竝ニ多クノ本疾患ヨリ分離シタ結核菌ノ毒力カ減弱シテ居ル原因ニ就テハ今日尙充分ニ闡明サレテ居ナイ。斯様ニ尋常性狼瘡ニ於テハ

其ノ病因ノミナラズ、其他ノ上記ノ如キ重大ナル諸問題カ未解決ノ儘ナル故ニ本疾患ノ臨牀疫學的及ビ細菌學的研究ヲ更ニ徹底的ニ續行スル事コソ望マシイモノデアリ、其ノ目的達成ハ研究室ト臨牀方面トノ緊密ナル連繫ニ俟ツ可キモノデアルト結ンテ居ル。

(九大細菌 占部薫抄)

酸素及ビ水分排除ト結核菌ノ生存力

Truman Squire Potter: Survival of Oxygen and Water Deprivation by Tubercle Bacilli. (Journal of Infectious Diseases, Vol. 60, No. 1, 1937.)

先ツ第一實驗ニ於テハ逆U字形 Pyrex 硝子管ノ一方ノ腕ノ中央部ニ、固形培地上6週間培養ノ鳥型結核菌塊ヲ置イタ後ニソノ管口ヲ封鎖シ、他方ノ腕ノ末端部ニハ豫メ金屬「マグネシウム」ヲ容レテ置キ、硝子管ヲソノ短傍腕ヲ以テ真空「ポンプ」ニ連接シ終始光線ヲ避ケツ、30時間吸引ヲ續ケテ M. Leod Gange ノ最高目盛迄空氣ヲ排除シタ後、密閉シテ「ポンプ」ヨリ切り離ス。然ル後ニ「マグネシウム」ガ白熱スル迄、Bunsen 燈ヲ末端部ヲ數回加熱シテ硝子管内ノ殘餘瓦斯ヲ全ク之ノ温「マグネシウム」ニ結合サセテ了フノデアル。斯カル操作後該硝子管ヲ直チニ室温ノ暗所ニ14ヶ月間貯ヘル。但シ其ノ最初ノ1週間ハ毎日「マグネシウム」ノ加熱ヲ反復スル。14ヶ月後ニ菌塊ヲ取り出シテ培養竝ニ動物試驗ニ依テ菌ノ生死ヲ判定シタ結果、其ノ孰レニ於テモ菌ガ明カニ生存シテ居ル事ヲ認メ得タ。尙同様ニシテ該菌ガ2ケ年間モ優ニ生存シ得ルコトヲモ證明シ得タノデアル。

第二實驗ニ於テハ、上記ノモノヨリ遙ニ容積ノ小サイ Pyrex 硝子管4個ヲ用ヒ、之ヲ真空「ポンプ」ニ接續シテ吸引スルト同時ニ50°C 1時間熱シテ硝子管ノモノニ吸藏スルコトノ有ル可キ瓦斯全部ヲ除去シタ後3週間培養ノ鳥型結核菌ヲ封入シ再ビ真空「ポンプ」ニ連續スルト同時ニ一方酸素竝ニ水分ヲ完全ニ除去シタ水素瓦斯ヲ充タシタ硝子球ニモ連接シテ置イテ、Pyrex 硝子管内ヲ真空ニシタ後該水素瓦斯ヲ充滿サセ、更ニ其ノ水素瓦斯ヲ排除シ強ク真空トナシ再ビ水素瓦斯ヲ充滿サセル。斯カル操作ヲ繰リ返ヘス事6回ニ及ンダ後水素瓦斯充滿状態ニ1—20時間放置シ、然ル後ニ再ビ強度ノ真空状態ニスル。以上ノ如クシタ硝子管ヲ37°Cノ暗所ニ貯ヘ、1、2、5竝ニ12ヶ月後ニソレゾレ開イテ其ノ中ノ菌ノ生死ヲ前實驗ノ場合ト同様ニ培養竝ニ動物試驗ニ依テ檢索シタ。其ノ結果、

斯ノ如ク最モ嚴密ニ酸素竝ニ水分ヲ排除シ去ツタモノニ於テモ依然トシテ1—12ヶ月間モ菌ガ生存力竝ニ毒力ヲ保持シ得テ居タコトヲ知ツタノデアル。但シ此際注目スベキコトハ、培養試驗ニ於テ菌ノ發育ガ稍ク不良ニナツテ居タト云フ點デアル。

(九大細菌 占部薫抄)

結核ト聴器

E. Urbantschitsch: Tuberculose u. Gehörorgan (Msch. f. Ohrenheilk. 70 Jg. 11 H. 1936.)

著者ノ30年間ノ經驗ニヨレバ

1、耳翼結核ハ4例トモ女性ニ見ラレ組織的ニ結核腫ヲ證明セリ。手術的ニ皮膚切開ノ下ニ内容ヲ除去シ、後「フィンゼン」燈照射ニテ治癒セリ。

大戰後ニ見ラレナクナツタノハ耳飾リノスタレタ爲ト光線療法ノ異常ナル進歩ニヨリ早期ニ治療サル、タメト考ヘラル。

2、組織的ニ結核ヲ證明サレタル乳嘴突起炎3例ニ共通ナル點ハ自竝ビニ他覺の經過間ノ不一致、肉芽増生旺盛ナル事、細菌ノ發見サレザル事ニシテ一般ニ手術後ノ經過ハ良好ナリキ。

3、「臨牀的ニ第一次」トモ云フベキ中耳結核ハ幼兒或ハ老人ニ見ラル、所テ肉芽發生、骨破壊著明ナル外、顔面神經麻痺ヲ來ス事多ク豫後一般ニ不良。

4、耳手術ヲ動機トスル粟粒結核症ノ可能ナル事ハ一般ニ認メラル、モ、カ、ル例ハ甚タ稀テ30年間3例アリシニ過ギズ。

5、相當進行セル重症全身結核患者ニモ非結核性乳嘴突起炎ガ發生シ得。

6、結核ノ遺傳甚タ強キ家族内ニ雙啞ノ子孫ガ稀ニ發生シ得ル事考ヘラル。(東大耳科 切替抄)

バザン氏硬結性紅斑ノ一特異例ニ就テ

G. Stümpke: Über einen eigenartigen Fall von Erythema induratum Bazin. (Dermat. Wschr. Bd. 103, Nr. 36, S. 1205, 1936.)

バザン氏硬結性紅斑ノ中ニハ臨牀的ニかなり異ツタ型、發生部位、經過等ヲ示スモノガアリ同時ニ他ノ結核病型ノ合併スル場合モ見ラレル。組織學的ニモ亦興味ガアリ定型的ノ組織像ヲ示サズ、寧ロベック氏粟粒狼瘡ヲ思ハセルコトガアル。著者ノ例ハ31歳女子、17歳ノ折肋膜炎ニ罹患、半年後兩側頸腺ノ腫脹ヲ來シ、其數週後兩眼ニ高度ノ炎症(結核性)ヲ起シタ。2年前ニ上膊皮膚ニ紅色結節ヲ生ジ、入院加療シタガ治癒セ

ズ漸次皮膚ハ前膊及顔面ニモ發生シタ。其所見ハ(1)右耳朶ニ黃褐色乃至赤色ノ浮腫狀腺腫アリ、又顔面所々ニ貨幣大ノ赤褐色光澤アル斑アリ、狼瘡結節ハ認メラズ、(2)上膊及臀部ニ皮膚ト共ニ移動性ノ硬キ櫻實大ノ丸形結節アリ、或ルモノハ比較的表在性ノ潰瘍ヲ形成スル、(3)前膊屈側ニハ播種狀ニ毛孔ニ一致シタ赤褐色多角形ノ小結節アリ、多クハ中心ニ小鱗屑ヲ有ス、同様ノ小丘疹ハ少數右下腿ニモアル。

組織學的ニハ上膊ノモノハバザン氏硬結性紅斑、前膊ノモノハ壞疽性丘疹狀核疹顔面ノモノハ組織學的検査ヲ行ハナカツタノデバザン氏硬結性紅斑カドウカ明確デナイ。鑑別スベキモノハベツク氏粟粒類狼瘡デアアルガ、皮下ニ發生シ、粟粒類狼瘡ニ定型的トサレル類上皮細胞結節カナク、比較的表在性ニシロ潰瘍ガアルノテ寧ロバザン氏硬結性紅斑ト考ヘラレル。而シテ此皮膚症狀ノ病因トシテハ肋膜炎及尙現在モアル肺症狀更ニ頸腺腫脹、之ニ續イタ眼疾患等總テ皮膚症狀ニ先行シタモノガ意義ガアル。

(千葉醫大皮膚科 山崎抄)

紅斑性狼瘡五例ノ家族の出現ニ就テ

A. Hirschberger: Über familiäres Auftreten von fünf Erythematodesfällen. (Dermat. Wschr. Bd. 103. Nr. 31. S. 1063. 1936.)

紅斑性狼瘡ノ家族の罹患例ハ既ニ Veiel, Maschkilleison-Neradow, Beck 氏等カ述ベテキルガ著者モ亦家族的ニ發生シタ 5 症例ニ就テ記ス。即チ 37 歳、27 歳ノ 2 人ノ姉妹ニ紅斑性狼瘡ガアリ、コノ母及ビ父方ノ伯母ニ同ジ疾患アリ、死亡シタ母ノ姉ニモ恐ラク同病ト思ハレルモノモアリ、皆圓板狀紅斑性狼瘡デアツタ。而シテ著者ハ此説明ニ感染ニ對スル皮膚ノアル特別ナル體質遺傳の反應性ヲ考ヘル。

(千葉醫大皮膚科 山崎抄)

無食鹽食餌療法ヲ施行セル魚鱗患者ニ於ケル尋常性狼瘡

I. G. Simon u. S. A. Syrkin: Lupus vulgaris bei einem mit Salzloser Diät behandelten Ichthyosiskranken. (Dermat. Wschr. Bd. 103. Nr. 39. S. 1315. 1936.)

尋常性狼瘡カ他ノ皮膚疾患ト合併スルコトハ著者等ノモスコー狼瘡療養所ニ於ケル 3500 例以上ノ材料カラ見テ確ニ稀デアリ、殊ニ魚鱗癬トノ合併ハ最初テ露西亞ノ文獻ニハ同様ノ例ナク外國文獻ニモ數例ニ

過ギヌ。著者ノ例ハ 8 歳男子テ軀幹、四肢、頭部ニ著明ナ魚鱗癬アリ、同時ニ肢端「チアノーゼ」症(Acrocy-anosis)アリ、尋常性狼瘡ハ顔面、頸部、左耳朶、四肢ニアリ大部分ハ潰瘍型、一部ハ扁平型デアアル。コノ狼瘡ハ 2 年前下肢ニ始マリ漸次他部ニ及ビ軟膏及「レントゲン」療法ヲ行ツテ效果ガナカツタモノデアアル。尙興味アルノハ扁平型狼瘡ハ魚鱗癬ノ高度ノ部分ニアリ、魚鱗癬ノ輕度ノ所ニハ潰瘍型狼瘡ガアツタ。治療ハ G. S. H. 三氏食餌處方ヲ少シク變ヘ蛋白 90、脂肪 120—130、含水炭素 300 g トシテ 6 ヶ月行ヒ潰瘍型ハ完全ニ瘰癧ヲ形成シ、扁平型ハ輕快シタガ全治シナカツタ。コノ際魚鱗癬モ同時ニ輕快シタノハ興味ガアル。

(千葉醫大皮膚科 山崎抄)

皮膚結核症ニ於ケル無食鹽食餌療法

Simon u. Kaplanskaja: Die Salzlose Diät bei Hauttuberkulose. (Dermat. Wschr. Bd. 103. Nr. 43. S. 1431. 1936.)

皮膚結核症ノ無食鹽食餌療法ノ研究上興味アルハ治療效果ヲ擧ゲルニ G. S. H. 三氏食餌處方ヲノ程度ニ嚴守スベキカト云フコト及ビ本療法ノ治效機轉如何ト云フ問題デアアル。著者等ハ H 氏食餌ヲ少シク變更シ、施行ヲ容易ナラシムルタメト含水炭素ヲ 25—35 % 増加シ脂肪ヲ 20—25 % 減量シタ。即チ蛋白 90 g、脂肪 120 g、含水炭素 300 g トシ總「カロリー」ヲ 2500—2600、「ミネラローゲン」ヲ添加セズ、食餌回数ヲ 1 日 5—6 回トシタ。コノ食餌療法ニヨル治療成績ハ次ノ如ク總括サレル。

1、52 例ノ皮膚結核患者ヲ 16 ヶ月間治療シ 41 例ハ臨牀的ニ全治シ或ハ著シク輕快シ、11 例ハ輕快ヲ示シタ。コノ際潰瘍型狼瘡ニ於テモ效果ハ迅速テ、寧ロ扁平型狼瘡、疣狀結核症ハ治療シ難イ。

2、治療日數ヲ短縮スルタメ、含砒素軟膏 Plantagin-pasta ハ效果的デアアル。光線併用療法ハ尙研究中デアアル。

3、副作用トシテハ治療開始第 1 週ニ於ケル輕度ノ便秘ノ他ナシ。

4、全身狀態ノ恢復體重増加血色素量、血色素指數、赤血球ノ増加カ認メラレ、又白色球増加症ハ輕快シタ多數ニ觀ラレタ核ノ左遷モ漸次正常ニ向フ。

5、赤血球沈降速度ノ漸次緩徐トナリ、之又完全ニ經過ニ一致ス。

6、丹毒ハ本食餌療法中普通食餌ニ於ケルヨリ屢々起

ルガ其経過ハ著明ニ輕イ。

7、Tuberculin ニ對スル感受性(ビルケー氏反應)ハ最初ノ間(1—3 ヶ月)ハ低下シ 其後ハ上昇ノ傾向アリ。

8、光線感受性ハ僅カニ上ル。

9、本療法ノ治效機轉ヲ究明スル目的テ行ハレタ種々ノ檢索ノ結果ハ效果本態トシテ、體內酸化作用及皮膚脱水作用等ノ説ハ妥當テナイ如クテアル。

(千葉醫大皮膚科 山崎抄)

腎臟結核ニ於テ手術後ノ瘻管形成回避ニ就テ(輸尿管切斷端ヨリノ結核菌培養)

Herbert Weber: Zur Vermeidung postoperativer Fisteln bei Nierentuberculose. Tuberkelbacillenkulturen aus dem Ureterstumpf(Zeitschrift für urologische Chirurgie und Gynaekologie. 42. Band. 5. und 6. (Schluß=)Heft 1936)

腎臟結核ノ際、タトヘソレガ初期デアツテモ除去スルコトが必要ナル。其ノ場合ニ餘リ危險性ハナイガ不快ナル合併症トシテヨク瘻管ヲ形成スル。之ニ對シテ吾人ハヨク姑息ノ療法トシテ 銳匙搔破術瘻管開破術ヤ腐蝕藥ヲ用フ。

瘻管形成ニハ色々ノ原因アルモ、手術方法ハ最モ大ナル役割ヲナスモノナリ。

瘻管形成ノ本性ニ就テハ或人ハ 結核菌ノ病原性ニヨルモノト云ヒ(本説ハ餘リニモ人工的過ギル)、或人ハ遺殘輸尿管切斷端ニヨルト云ヒ(獨逸學派)、又或人ハ結核ニ 侵サレタル腎臟脂肪囊ニヨルモノナリト云ヘリ(佛蘭西學派)。

遺殘輸尿管切斷端ハ結核腎摘出後ノ瘻管形成ニ大ナル意味アルモノニシテ、之ガ處置ニ關シテハ從來色々ノ方法ガ考慮セラレタリ。「アメリカ」學派ニ於テハ輸尿管全摘出ガ推奨サレタリ。最近ノ文獻ニ依レバ Constantinesco, Vinceti ハ遺殘輸尿管切斷端ヲ腎臟摘出創ニ縫合スルヲ最善ナリト云ヒ、Calcavara ハ輸尿管切斷端中ヘ「カテーテル」ノ留置及滲出液ノ吸入ニヨリテ輸尿管内容物ノ蒸溜及創傷内ヘノ流入ヲ防禦シ得ルト云ヘリ。其他輸尿管切斷端ガ瘻管形成ニ或ル原因的ノ關係ヲ有ストノ考ヘヲ抱ク人多シ(Scholefield, Terra Abrami)。

一般ニ輸尿管ガ 既ニ結核ニ 侵サレキルカ否カガ瘻管形成ニ關係アルモノニシテ、結核性輸尿管炎ヲ起セルモノハ瘻管形成ヲ起シヤスシト言ハル。

最後ニ吾人ハ血管ト輸尿管ノ 結紮切斷ノ順序ガ瘻管

形成ニ大ナル意味アリト信ズ。即チ、最初ニ血管ヲ結紮シテ次ニ輸尿管ヲ切斷スルカ、或ハ反對ニ手術ノ最後ニ創面縫合前ニ輸尿管ヲ切斷スルカニヨリテ異ナルモノナリ。多クノ症例經驗ヨリ最初ニ輸尿管ヲ切斷スルコトハ瘻管形成ノ 危險多キヲ以テ可及的ニ避クベキナリ。而シテ輸尿管切斷端ヲ創面前下部附近ノ皮膚ニ縫合スルコトガ最モ危險少キモノト思ハル。

輸尿管ガ結核菌ニ侵サレキルカ否カラ知ルタメニ培養試験ヲ行フ。即チ、手術後2—3 日中ニ吾人ハ結紮上部ノ輸尿管切斷端ヲ切斷シ、ソノ組織片ヲ結核菌培養ニ使用スル。ソノ結果ハ可ナリ高率ニ結核菌ヲ見出スコトガ出來、從ツテ輸尿管切斷端ヨリノ結核菌ノ證明ニヨリテソレガ結核腎摘出後ノ 特殊創傷傳染ノ泉源ヲナシ瘻管形成ノ出發點ト見ナクレバナラス、コノ事實ヨリ見テ輸尿管切斷端ヲ 創傷外皮膚ニ縫合スルコトガ瘻管形成回避ノ最善ナルモノナルヲ知ル。

(阪大皮膚科 若杉長門抄)

右側頰部ノ紅斑性狼瘡、左側頰部粘膜面ニ於ケル類似皮膚

M. Pinard, Guex et Temerson: Lupus érythémateux de la joue droite. Lésion analogue de la face muqueuse de la joue gauche(Bull. Soc. franç. Dermat. No. 4. p. 748. 1936.)

著者ハ27 歳男性テ2 ヶ月前ニ生ジタ右頰部ノ紅斑性狼瘡ガアリ同時ニ左側頰ノ 粘膜面ニ皮膚ガ觀察サレタ。而シテコノ粘膜疹ト鑑別スベキモノトシテ齒ノ惡イタメ起ツタ機械的損傷、微毒疹、扁平苔癬、「ロイコプラキエ」等ガ擧ゲラレルガ是等トハ何レモ區別シ得ルヲ頰粘膜ノ紅斑性狼瘡テアルト考ヘ、カ、ル發生部位ハ稀有ナルモノテアルト云フ。

(千葉醫大皮膚科 山崎抄)

再ビ光澤苔癬ノ一新所見(嘗テ負傷セシ手ニ發生セル例)

H. Gongerôt et R. Degos: Encore un nouvel aspect du Lichen nitidus (localisatin à une main antérieurement blessée). (Bull. Soc. franç. Dermat. N° 4 p. 715 1936)

著者ハ嘗テ P. Blum 氏ト非定型的ノ光澤苔癬ノ1 例ヲ報告シタガ再ビ非定型ノ 第2 例ヲ報告スル。患者ハ39 歳自動車運轉手テ且テ外傷ヲ受ケタ右手背ニ限局性ニ帶紫紅色ノ大部分ハ圓形ニシテ 融合セザル小丘疹ヲ生ジタ。組織學的檢査ノ結果ハ主變化トシテ真皮

ノ浸潤テコレハ大部分ハ淋巴球其他類上皮細胞、巨大細胞ヨリ成ル。尙コノ患者ニハ結核ノ既往症ハナイガ姉弟ニ胸部疾患ガ觀ラレタ。本例ノ興味アル點ハ光澤苦癬ノ臨牀的ニ可成異ツタ所見ヲトリ得ルコト、發疹ガ管テ外傷ヲ受ケタ手ノ抵抗力弱キ部位ニノミ生ジタコトデアル。(千葉醫大皮膚科 山崎抄)

一肺結核患者ニ於ケル上口唇ノ下疳様結核性潰瘍形成

P. Chevallier et S. Kaplan: Ulcération tuberculeuse chancreiforme de la lèvre supérieure chez un tuberculeux pulmonaire. (Bull. Soc. franç. Dermat. N° 6 p, 1238 1936)

45歳男子、1ヶ月前ヨリ上口唇ニ潰瘍ヲ生ジ疼痛等ナク次第ニ増大シタ。其大サ1「フラン」大、潰瘍ハ僅カニ深ク潰瘍部ニノミ浸潤ガアリ、分泌液中ニハ結核菌ノ多數ヲ證明シタノテ診断ハ確定シタ。尙分泌液中ニハ勿論螺旋菌(tréponème)ヲ含マズ、患者ハ6ヶ月來兩側肺結核ノタメ「サナトリウム」ニ入院中デアル。本例ノ特徴トシテハ其部位ガ上口唇ニアリ、其所見ハ下疳(chancre)、或ハ潰瘍性腫瘍ノ如ク見ユル點デアル。(千葉醫大皮膚科 山崎抄)

腎臓ニ於ケル結石ト結核ノ同時發生

Frederick Lieberthal, M. D.: The simultaneous occurrence of stone and tuberculosis in the kidney a Report of three cases (from The Urorogic and Cutaneous Review)

1910年 Liebermeister ガ初メテ腎臓ニ於テ結石ト結核トガ同時ニ發生スル事ニ注意ヲ拂ヒ、其後同様ナル發表ガ多數ニナサレタ。併シ同シ腎臓ニ結石ト結核トガ同時ニ起ルコトハ稀ナコトテ、Wildbolz ニヨレバ1,000例ノ腎臓結核中14例ニ於テ結石ヲ見タト云フ(1.4%)。

Eisendrath ハ腎臓或ハ輸尿管結石ノ際ニハ結核ノ共存ヲヨク検査セネバナラスト云フ。腎臓或ハ輸尿管結石ノ場合ニ、腎臓結核ノ存在ヲ看過シテ姑息ノ手術ヲ施行スルナラバ、手術後ノ瘻管ノ残留ヤ結石ノ再生等ノ危険ヲ伴フモノデアル。

同一腎臓ニ結石ト結核トガ同時ニ存在スルコトヲ臨牀的ニ診斷出來ルコトハ稀デアル。幸ヒニモ臨牀的ニ之ガ診斷サレタ場合ニハ直ニ腎臓摘出術ヲ行フベキデアル。

結石ト結核トガ同一腎臓ニアラハレル際ニハ Liebermeister ノ云ヘル如ク、ソノ直接ノ因果關係ヲ考フベキナリ。併シコノ因果關係ハ融通性ヲ有スルモノニシテ、即チ腎臓組織ハ崩壞物ヲ含有スル腎盂尿ニヨリテ充サレ、尿ノ其他ノ各種成分ト共ニ核心トナリ、尿中ノ鹽類ガ堆積シテ結石ヲ形成シ、又時ニハ結核菌自身モ核心トナリ得ルモノニシテ、Bitschайハ尿中ニ於ケル保護膠質ガ減少シテ結石形成ヲ促進スルモノナリト云フ。逆ニ腎臓ハソノ解剖學的所見ヨリ結核ニ對スル或種ノ免疫ヲ有スルモノナルガ結石ノアル場合ニハ結核性感染ヲ促スモノナリ。

前述ノ如ク同一腎臓ニ結石ト結核トノ共同存在ヲ臨牀的ニ診斷スルコトハ困難ナリ。「レントゲン」線診察ニヨリテ結石ガ證明サレタ場合、ソレ以上ノ檢索ヲ行ハナイタメニ屢々結核ヲ看過スルモノナリ。無論斯ル例ニ於テハ結核病竈ハ不活動ノ状態ニアリ、結核菌ハ尿中ニ排出サレズ、膀胱ニハ何等ノ變化モ見ラレズ。從ツテ非常ニ丁寧ノ臨牀的診察ニ拘ラズ、結核ノ存在ヲ見落スモノデアル。從ツテ姑息ノ手術ヲ充分デアル腎臓或ハ輸尿管結石ノアル場合ニ常ニ腎臓結核ガ同時ニ存在シ得ルモノナルコトヲ記憶セネバナラスト。

(阪大皮科 若杉抄)

一般學術雜誌

臺灣ニ於ケル結核性内科疾患ニ關スル研究

第5報 臺灣各地ニ於ケル小公學校兒童及比臺北市ノ學生、生徒、工場労働者ノ「ツベルクリン」反應ニ就テ

小田俊郎他4名(臺灣醫學會雜誌、第36卷、第2號)本研究第1報「ツ」反應ヨリ觀タル結核感染濃度ニ對

スル補足トシテ行ハレタル研究ニシテ次ノ如キ成績ヲ報告セリ。

I 臺灣各地方小公學校兒童ニ就テ

臺北、基隆、臺中、嘉義、臺南ノ5市、大溪、羅東、北港、口湖、松山、安平ノ6街庄及ビ阿里山ニ於ケル小公學校17校ノ兒童ニ就イテ試ミタルマンントウ氏「ツ

「ベルグリン」反應検査成績ヲ次ノ如ク綜括セリ。

(1)市街共ニ小學兒童(内地人)ニ比較シテ公學校兒童(臺灣人)ノ陽性率大ニシテ、其差ハ市ニ於イテ特ニ著シ。男女即チ同一ノ市又ハ街ニテ小學校及公學校ヲ比較検査シタル成績ハ次ノ如シ。

	小學校	公學校
市 {男	34.5—39.4%	43.5—62.2%
女	32.3—37.9%	38.4—61.0%
街 {男	20.6—34.1%	35.3—39.8%
女	25.3—36.7%	38.1—38.6%

(2)市街庄ノ成績ヲ總括スレバ小公學校共ニ市ノ陽性率高シ。而シテ等シク街庄ノ内ニテモ臺北市ニ近キ松山及ビ臺南郊外安平公學校ハ他ノ庄ヨリ遙ニ高率ヲ示シ、鐵道沿線ヲ離レ淡水河上流ニ位スル大溪街兒童ハ低率ニテ都會ノ田舎ニ及ボス影響ノ大ナルヲ示セリ。然レ共一面阿里山ノ如キ高山小學校ニ於イテモ平地ノ田舎ニ匹敵スル陽性率ヲ認メ、臺灣ニ於ケル結核淫浸ノ凡ユル方面ニ及ベルヲ知レリ。

(3)各市ノ内ニテ臺北ハ他ヨリ稍ク低率ナルガ、被檢兒童ノ家庭狀態必ズシモ同一ナラザルヲ以ツテ、之ヲ以ツテ一般的ニ各市ノ結核濃度ヲ比較シ難シ、内地大都市ト比較スルニ小學兒童ハ一般ニ低率ナルガ臺北以外ノ市ノ公學校兒童ノ陽性率ハ内地ニ凌駕セリ。

II 帝大學生及專門部學生ニ就テ

18—30歳帝大學生及ビ專門部生徒ニ就イテ検査セルニ内地人 192 名中 70.3%、臺灣人 147 名中 78.9%、陽性ニテ之亦臺灣人ノ方高率ナリ。

III 工場労働者ニ就テ

專賣局工場労働者内地人 229 名中 89.1%、臺灣人 99 名中 96.0%、陽性ニテ臺灣人ニ高率ナリ。

IV 中等學生ノ「ツ」反應陽性轉化ニ就イテ

内地人 540 名臺灣人 192 名ノ 1ヶ年乃至 1ヶ年半ニ於ケル陽性轉化ハ内地人ハ 38.0%ヨリ 50.7%、臺灣人ハ 48.4%ヨリ 65.6%ニ昇リ、陽性轉化例 98 名ノ「レントゲン」検査ノ結果 9 名ニ於イテ肺ニ多少ノ病變ヲ認メタリ。

(臺北 小田抄)

如何ニシテ家畜ノ結核ヲ效果ノニ防壓スベキカ

Hans Gerlach: Wie kann die Tuberkulose wirksam bekämpft werdeh? (D. t. W., 45, 1937, 3)

Reichenbach Eulengebirge ノ屠場ニテ結核ト決定セラレシモノハ、牛ニアリテハ

1934 年			
	總數	結核牛	%
牡牛	35	12	34.3
種牡牛	563	255	45
牝牛	706	431	61
幼牛	95	56	58.9
犢	2924	32	1.1
1935 年			
	總數	結核牛	%
牡牛	37	9	24.3
種牡牛	455	264	58
牝牛	644	418	63.3
幼牛	168	61	36.3
犢	2562	28	1.1

ニテ、豚ニアリテハ 1934 年 9.4%、1935 年 10.6%ガ結核ナリキ。而モ豚ノ場合ニハ其極メテ大多數ハ唯腸間膜根淋巴腺ノミヲ冒サレテオルカ、或ハ肝臟ノ結核ヲ合併セルモノニシテ、肺結核又ハ肺ト腹腔臟器結核ノ合併セルモノハ少ク、之感染ノ食餌性ナルヲ示スモノニテ牛ニ於テ肺ガ先ヅ冒サル、ト異ナル處ナリ、又牛ガ家禽結核ニ感染スル時ニハ、病狀甚ダ緩徐ニシテ屢ク子宮、腸ニ病竈限局シ、家禽ニ對シ長期ニ互リ傳染源トナルコトアリ。

扱テ政府ハ結核撲滅策ニ對シ 1930 年 9 百萬 RM、1931 年ニハ 8 百萬 RM 以上ヲ支出セシモ效果少キコト上述ノ如シ。著者ハ家畜結核撲滅策トシテ次ノ事項ヲ提唱ス。

- 1、家畜ノ體格ノ改良、繁殖動物ノ選擇ニハ音ニ乳肉ノ能力ノ點ノミヨリ見ルコト無ク、先ヅ健康ニシテ抵抗性强キモノヲ繁殖用トスベシ。
- 2、環境ヲ良好ナラシムルコト、厩舎、戶外運動場、放牧場ノ衛生的ナルコト、合理的衛生的ナル飼料ヲ充分與フルコト。
- 3、診斷法ヲ用フルニ努メ、屠場検査ノ所見ヲ重シ、又耳部ニ印ヲ附ケル様ニスルコト。
- 4、地方人ノ協力ヲ得ルコト。之レニハ家畜購買並ニ厩舎工事ノ際ニ説明及ビ補助金ノ認可ヲ與へ、結核、牛流産、乳房疾患無キ場合ニハ其ノ旨認知ヲ與へ、結核罹患ニ對シテハ責任ヲ負ハシム。
- 5、地方的ニ無病地帶ヲ作ル様ニシ、無病畜群並ニ防壓方策ヲ行ヘル畜群ニ結核ヲ發見セシ際ハ總テ之ヲ處分スベシト。

(北研 添川抄)

「ボンメル」ニ於ケル結核撲滅所見

O. Pröscholdt: Ausschnitte aus der Tuberkuloseiti

Igung in Pommern. (D. t. W., 45, 1937, 65)

「ボンメル」ニテハ牛ノ約40%ハ結核ニ罹患シ居リ、一般ニ小飼養群ニ於ケルヨリモ大飼養群ニ罹患牛多シ。

1936年2月「ボンメル」畜牛組合顧問ハ余ノ動議ニ基キ次ノ決議ヲナセリ。

1、組合員ハ次ノ各項ニヨリ糞並ニ幼牛ヲ結核ニ感染セシメザル様努ムベシ。

(a)分娩直後糞ヲ特別厩ニ移ス。

(b)無結核母牛ノ乳又ハ充分加熱セル牛乳ヲ以テ飼育ス。

(c)幼牛ヲ一般厩舎ヨリ隔離シ置ク。

2、組合員ハ糞、幼牛及ビ幼種牛ニ「ツベルクリン」注射ヲ行フベシ。

3、仕切板ニテ無結核牛ノ隔離ヲ行ヘル如キ飼養場ニアリテハ、Pröschoidt 博士ノ方針ニ基キ結核撲滅ヲ始ムベシ。

4、本結核撲滅法ヲ行ヘル家畜ハ公賣目錄ノ出品人簿ニ其旨記載ス。

此決議ノ結果組合員ハ結核撲滅ニ醒メ、而シテ無結核牛生産ニ對シ次ノ方法ヲ賞讃セリ。

1、家畜ニ嚴密ナル臨牀ノ検査ヲ行ヒ臨牀所見ノ極メテ軽度ニテ而モ疑ハシキ場合ニハ氣管粘膜ヲ採取シ検査スルコト。

2、全家畜(糞ヲ含ム)ニ年2回「ツベルクリン」検査ヲ行フ。

3、臨牀並ニ「ツベルクリン」注射ニテ陰性ナリシ飼養群ハ向フ約1ケ年半ノ間氣管粘液ニ就テ結核菌検査ヲ行フ。

4、各種検査ニテ結核反應陰性ナリシモノハ速時罹患獸ヨリ嚴重ニ隔離シ置ク。

5、健康獸ヲ入ルハニ先立チ、厩舎ヲ清掃消毒シ、少クモ年2回厩舎並ニ器具ヲ根本的ニ清掃消毒ス。

6、民家ノ牛又ハ他ノ見知ラザル牛ヲ健康斑ニ入レザルコト。

7、健康斑ノ種附ニハ無結核種牝牛ヲ特ニ用意ス。

8、結核斑ノ牛群ヨリ産レン糞ハ産後直チニ特別ナル糞群又ハ健康斑ニ移シ、3ケ月乃至6ケ月後「ツベルクリン」検査ヲ行フ。

9、糞ニハ唯健康牝牛ノ乳ヲ與フ。

10、第1回検査後3ケ月乃至6ケ月ニテ健康斑ニ再度「ツベルクリン」注射ヲ行フ。

11、他ノ由來ノ飼育牛ハ臨牀検査、氣管粘液並ニ乳汁ノ細菌學的検査、少クモ1ケ月間隔ヲ以テ行ヘル2回ノ「ツベルクリン」検査等ニ合格セル後健康斑ニ入レルベシ。

12、兩斑ノ分離ハ放牧時モ實行スベク、各斑ニ別箇ノ飲水場ヲ要ス。

13、兩斑ノ分離ニ特別厩舎無クシテ、木壁ニテ仕切ル場合ニハ塵埃感染ヲ考慮シ必要ニ應ジタル板ヲ用フベク、共通ノ水道管、肥溝ハ之ヲ分離シ、戸口ヲ別ニス。又兩斑ノ厩肥ヲ別ニス、器具、肥車、搾乳牛桶、干草置場モ別ニス。而シテ兩斑ニ別々ノ牧夫ヲ使役スルカ、然ラザレバ飼養管理ハ先ヅ健康斑ヨリ行ヒ他斑ニ入ルニ先立チ、靴、豫防衣ヲ取り換フ如クス。

14、其他糞ノ無結核育成ヲ包含スル國定自由結核防禦處置方針ヲ嚴密ニ遂行ス。

15、總テ畜牛ハ耳若クハ角ニ番號ヲ附スベシ。

16、厩地ニ雞。鳩ヲ飼養セザル様配慮スベシ。

而シテ著者ハ次ノ獎勵策ヲ必要ナリト論ズ。

1、扶助金ヲ與ヘテ、「ツベルクリン」検査ニテ陽性ナリシ時ハ之ヲ直ニ輕症群ニ移ラシム。

2、建築助成金ヲ與ヘテ、隔離法ノ遂行ヲ容易ナルガ如ク隔離厩ヲ作ラシム。

3、無結核飼養場ヨリノ牛乳ノ價格ヲ引上ゲ、一ツニハ結核撲滅法實行ノ注意ヲ喚起シ、一ツニハ勞力、入費ニ對シ之ヲ補償ス。

4、無結核飼養群ヲ國家ガ認定スル。

5、一定期間繁殖種牛ハ結核撲滅法ヲ行ヘル飼養群ヨリノミ支給シ、繁殖用牛ノ公賣又ハ市場ニハ「ツベルクリン」検査ヲ行ヒテ陰性ナリシモノノミ許可スル如ク命ズベシト。(北研 添川抄)

野獸ノ結核

Johannes Schmidt: Tuberkulose beim Wild. (B. t. W., 1937, S. 17)

2400「モルゲン」ノ地積ヲ有スル公爵獵區ヨリ獲タルモノ及ビ一部ハ天然獵區ヨリ獲タル Rotwild (Cervus claphus), Damwild, Rehe (Capreolus capraea) 及ビ野猪計43531頭ヲ検査シタルニ、是等4種ノ野獸ノ何レニモ結核ヲ證明セリ。野猪最モ感染率高ク(總頭數ノ13.4%)、Damwild 之ニ次ギ Rotwild 及ビ Rehe ハ少シ。年齢、性別等ニハ見ルベキ關係無シ。肺臟最モ屢々冒サレテ肝臟、舌、腎臟ナリキ(胃腸管ハ調査セズ)。病變ハ石灰化ヲ見ルモノ多シ。

斯ク多數ニ野獸ニ結核ヲ見ル原因ハ該獵區ニ於テ、狩獵時速刻其場ニテ獵獸ヲ開腹、胃、腸、脾臟ヲ取り捨テ、而モ之カ間モナク野猪、狐等ニヨリテ採食セラレカクシテ起ル食餌感染、又餌養場ヲ中心トスル空氣感染等考ヘラル。又野鳥ニヨル感染モアルベシ。菌型ハ牛型多カラント。(北研 添川抄)

自然獵區ノ赤鹿ニ見タル慢性肺結核
O. Schiel: Chronische Lungentuberkulose bei einem Rothirsch aus freier Wildbahn.(B. t. W., 1937, S. 20)
牛型結核菌ノ 空氣感染ニヨル赤鹿ノ 慢性肺結核例ヲ報ズ。(北研 添川抄)

~~~~~  
**會報並雜報**  
~~~~~

○五月中新入會者

山 内 憲 禧	東京市豊島區池袋三ノ一三九二	南滿鐵安東醫院分院	滿洲安東
柴 田 晴 之 助	大阪市此花區江成町九一濟生會大 阪府西野田診療所	岩 本 茂 樹	滿洲國新京滿鐵醫院內科
大 藤 信 之	青森縣南津輕郡黒石町黒石津輕病 院內	石 黒 和 夫	千葉市長洲町二ノ三一
齋 藤 淨 造	朝鮮黃海道瑞興郡瑞興	佐々木 源三郎	札幌市北四條西五丁目
		岩 谷 國 男	岐阜市花澤町二丁目三
		佐々木 範 男	福岡市屋形原市立屋形原病院內

○會員ノ訃

右記會員ノ訃報ニ接ス謹テ哀悼ノ意ヲ表ス

丹羽七次郎 林 茂

○渡邊博士著「結核ノ細菌及免疫學」ノ寄贈

今回北里研究所結核部長ニシテ本會幹事タル渡邊義政博士著「結核ノ細菌及免疫學」ヲ同研究所ヨリ本會

評議員ニ寄贈セラレタルヲ以テ本月中旬本會事務所ヨリ夫々配布セリ。

第 15 卷第 5 號總會演說抄録ノ訂正

1) 512 頁, 119 番(缺)トアルハ誤ニツキ 訂正ス、尙ホ演說内容次ノ如シ。

119. 樺太土人(ギリヤク、オロコ族)及

近文「アイヌ」ノ肺結核ニ關スル

「レントゲン」學的研究

有 馬 英 二
角 田 育 之
有 末 四 郎
原 順 吉
葛 西 も 吉
林 延 夫
(北大有馬內科)

昨年 7 月樺太北端在住土人「ギリヤク」、「オロコ」42 名ニ就キ又同 10 月北海道近文「アイヌ」89 名ニ就テ「レントゲン」寫眞撮影ヲ行ヒ肺結核ニ關スル検査ヲ施行セリ。

樺太土人ニ於テハ 42 名中早期型結核ハ 3 例晚期型結

核ハ 7 例石灰竈ノミヲ認メシモノ 11 例、肋膜肥厚 1 例ナリ、近文「アイヌ」89 名中早期型結核 4 例晚期型結核 7 例、肋膜肥厚 1 例ヲ見タリ、石灰竈アルモノハ 13 例ヲ算ス。

本研究ニヨリ樺太北端ノ未開土人ニ於ケル結核感染ノ猛烈ナルコト、肺結核ノ多數ナルコトヲ知り、北海道「アイヌ」ニ於テハ今回調査ノ近文「アイヌ」ニ於テハ前年ノ日高及膽振「アイヌ」ニ比較シテ稍々少キヲ認メタリ。

肺結核型トシテハ樺太土人ニ於テハ増殖性ノモノ多ク近文「アイヌ」ニテハ滲出性ノモノ 1 名ヲ見硬化性ノモノ多カリキ。

2) 627 頁、96 番、化學的新藥「チモフォーゲン」ノ肺結核治療ト赤血球沈降速度トノ關係ニ就テ。トアルヲ